

現場を知り尽くした「プロ」からAWS設計のノウハウを学べる一冊！  
「AWS設計スキルアップガイド」  
サービスの選定から、システム構成、運用・移行の設計まで」  
技術評論社より7月26日（水）に新発売

株式会社BFT（東京都千代田区：代表取締役社長 小林 道寛、以下BFT）名古屋支店は、AWSの設計について解説をした「AWS設計スキルアップガイド - サービスの選定から、システム構成、運用・移行の設計まで」を技術評論社より、7月26日（水）に発売いたします。現場を知り尽くした「プロ」ならではのノウハウを紹介しています。

## 【書籍情報】

**AWS設計スキルアップガイド**  
**サービスの選定から、システム構成、運用・移行の設計まで**

著者	株式会社BFT
監修	佐野夕弥・相馬昌泰・富岡秀明・中野祐輔・山口杏奈
値段	3,190円（本体2,900円＋税10%）
発売日	2022年7月26日（水）
ページ数	304ページ
サイズ	A5判
ISBN	978-4-297-13649-9

## 【目次】

<b>第1部 クラウドの基礎知識編</b>
第1章 オンプレミスからクラウドへ
第2章 クラウドのインフラ設計
<b>第2部 AWSのシステム構成編</b>
第3章 システムの構成
第4章 ネットワーク設計
第5章 コンピューティング
第6章 データベース
第7章 ストレージ
第8章 アプリケーション統合
第9章 可用性
第10章 セキュリティ

**第3部 AWSの運用設計編**

第11章 ジョブ管理
第12章 バックアップ
第13章 監視
第14章 構築・運用の自動化

**第4部 AWSへの移行設計編**

第15章 オンプレミスからの移行
------------------



## 【書籍紹介 URL】

<https://gihyo.jp/book/2023/978-4-297-13649-9>

BFTはエンジニア400名を擁する会社として数々のシステムに携わっています。その経験を基に現場の状況を織り交ぜつつ生の雰囲気をお伝えできるよう、メディアでの寄稿や連載等の執筆活動を行っています。

本書はAWSの「設計」に関することを網羅的に扱っています。AWSでは200以上のサービスを提供していますが、設計という観点から絞り込み、本当に必要なものだけをくわしく紹介しています。さらには、設計を自分の力で進めていくために必要となる知識も記載しています。システム構成図の描き方、リスクマネジメント、クラウドリフト・クラウドシフトなど、システムの全体設計を行う上で有効な手札としていただくと嬉しいですよ。

「誰か」が決めたルールの上で設計・構築・試験・運用をするのではなく、「どうあるべきか」をあなた自身で考え、決めていくためにぜひご活用ください。

## ■こんな人におすすめ！

初心者から次のステップへと向かうインフラエンジニア

インフラの基本やAWSの個別サービスの設定はわかってきたが、インフラ設計への落とし込み方に悩む方

## ■著者プロフィール

### 佐野夕弥（さのゆうや）

学生時代ではゲーム制作を行い、初めて務めた不動産会社では営業や広報、情報システムを兼務し、今は本書の執筆者の一人。業務や趣味で文章を書き連ねてきた経験を技術ブログ記事や本書に活かしている。IT業界に飛び込んでからはAWSをはじめとしたクラウドの業務に取り組み、理解を深める毎日。

### 相馬昌泰（そうまさやす）

プログラマーからインフラエンジニアに25歳で転職。オンプレで主に運用設計を担当しつつ、AWSのリフトからクラウドサービスへ携わり今に至る。好きなAWSサービスはS3です。

### 富岡秀明（とみおかひであき）

PC98でコンピュータの魅力に取り憑かれ、30年近くIT業界の経験を積む。部門運営とITセールスエンジニアを兼務するアラフィフエンジニア。ポジティブさを保ちながら、経験と知識を深め、IT業界の発展に寄与することを目指す。一番の喜びは若者の成長を感じることに。

### 中野祐輔（なかのゆうすけ）

学生時代を沖縄で過ごし、海外一人旅や短期留学を経験しました。教員免許やファイナンシャルプランナーの資格を取得しましたが、IT業界を志しBFTに新卒で入社し4年目になります。クラウドや自動化に興味を持ち、業務に取り組んでいます。好きなAWSサービスはAWS Backupです。

### 山口杏奈（やまぐちあんな）

新卒では雑貨業界に就職。20代後半に思い立ってIT業界へ転職し、今に至る。2020年秋からは名古屋支店へ異動し、システム構築の傍ら、技術ブログの執筆やインターンイベントの企画・運営などを実施しています。好きなAWSサービスはCloudFormationです。

## ■見本ページ

### 18ページ

### クラウドで考えるセキュリティ

2 クラウドのインフラ設計 クラウドで考えるセキュリティ 2.2

ド事業者との責任分界点や機能・制限が異なり、場合によっては非機能要求事項を満たせない可能性があります。まずは要求事項を満たすために、構成やほかのサービスとの併用によってクリアできるか、その際にかかる費用は許容されるかなど、使用するサービスの機能や制限を詳細に調査しましょう。またオンプレミスと同様、要求を満たすためにはこの構成にするといったある程度決まったパターンがあります。構成例はAWSが公式に出しているものが多数ありますので、「AWSサービス別資料」で知りたいサービスや構成の情報を確認するとよいでしょう。

経験上、オンプレミスと比べてクラウドが大きく信頼性に欠ける印象はありません。もちろん、システム要件に合致した正しい設計・構築がなされ、正しく運用されていることが前提です。非機能要求は高くなりすぎると、実際にかかる環境のコスト以上に設計・構築・運用コストが高騰します。細かい部分までコントロールしたい場合は「クラウドを使用しない」や「一部をオンプレミスで構築する」といった方針も検討できますが、クラウドを有効活用していくのであれば要求事項をクラウドに合った形へ見なおしていくことも必要でしょう。

※ 参考：「AWS サービス別資料」 <https://aws.amazon.com/jp/events/aws-event-resource/archive/?cards.sort-by=item.additionalFields.SortDate&cards.sort-order=desc&wf.tech-category=all>

## 2.2

### クラウドで考えるセキュリティ

#### クラウドセキュリティの責任分界点

クラウドを利用するうえで大きな懸念のひとつとして、「セキュリティリスク」が挙げられます。クラウド事業者との責任分界点を理解すれば、クラウドを利用する私たちが取るべき対応もおのずと見え、セキュリティリスクを低減して安全にクラウド上のサービスを利用できます。

**責任分界点とは**

責任分界点とはその名の通り「サービスの提供者と利用者間で責任を分ける点」のことで、**万が一、事故が起こったときや何らかの対応が必要なときに責任の所在を明らかにするもの**であり、クラウドに限った用語ではありません。たとえば電力会社が一般の家庭へ送電しているケースでいうと、軒先などに取り付けられている引込線取付点が責任分界点です。責任分界点を越えた先、つまりメーターや屋内配線の問題が生じた場合の対応の責任は、契約者にあります。

AWSでも同じく、AWSが責任を持つ領域と、AWSを利用する開発者が責任を持つ領域が責任分界点によって分けられています。

**AWSの責任共有モデル**

クラウドのサービスを利用してシステムを構築するとき、多くの場合は物理サーバやストレージなどを別途用意する必要はありません。そのため開発者は、たとえばハードウェアのEOSLや、ドライバ・ユーティリティのバージョンアップなどを考慮せずに済みます。しかしOSやアプリケーションのバージョンやパッチ対応・ファイアウォール設定などの管理責任は、開発者が持たねばなりません。このように複数の関係者が担当するレイヤ（物理レイヤ、OSレイヤ、アプリケーションレイヤなど）のセキュリティ保護を負い、全体最適することを「責任共有モデル」と呼びます(図2.2.1)。

▶ 図2.2.1 AWSの責任共有モデル

クラウド内のセキュリティに対する責任	お客様のデータ			
	プラットフォーム、アプリケーション、IDとアクセス管理			
AWS 利用者	オペレーティングシステム、ネットワーク、ファイアウォール構成			
	クライアント側のデータ暗号化 (ファイルシステムやデータベース暗号化機能)	サーバー側の暗号化 (ファイルシステムやデータベース)	ネットワークトラフィック保護 (暗号化、整合性、ファイアウォール)	
クラウドのセキュリティに対する責任	ソフトウェア			
	コンピュート	ストレージ	データベース	ネットワーク
AWS	リージョン	アベイラビリティゾーン	エンシロケーション	

18 19

## 【既刊図書のご案内】

B F Tは、「Think IT」 内にて連載した「新人エンジニアのためのインフラ入門」と「エンジニアなら知っておきたいコンテナのキホン」を書籍化、発売しております。

### 「新人エンジニアのためのインフラ入門」

「そもそもインフラとは何か?」というところからITインフラ全般の概要を解説しています。具体的には、サーバ、ネットワーク、仮想化・クラウド、ミドルウェア、システム運用、構築・テスト、バックアップ・リストア、セキュリティ、プログラミングまで、「システムの基礎」と「運用の基礎」を両面から解説します。

### 「エンジニアなら知っておきたいコンテナのキホン」

250点に及ぶ図解を駆使して、コンテナの概念から開発・運用まで初心者でもわかりやすく解説しており、全体像をやさしく把握できるように書かれています。コンテナエンジン「Docker」、コンテナオーケストレーションシステム「Kubernetes」の基礎が学べる一冊です。さらに、実際にハンズオンで手を動かしながら、現場で役立つ知識も身に付けられます。



## 【技術評論社について】

パソコンの入門書からIT技術者向けの専門書までを網羅したコンピューター書を中心とする書籍・雑誌の発行。54年にも及ぶ技術書作りのノウハウを活かした理工学書をはじめ資格試験のための参考書など、その発行点数・売上規模とも業界トップクラスを誇っています。また、サイエンス書、一般実用書やビジネス書、大学受験参考書など、他にも幅広い分野での出版活動を行っています。

 技術評論社

## 【会社概要】

社名 株式会社B F T  
設立年月日 2002年4月4日  
資本金 9,990万円  
代表取締役 小林 道寛 (Kobayashi Michihiro)  
従業員数 407名 (2022年4月時点)  
住所 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビルディング22階  
公式HP <http://www.s.co.jp/>

**BFT**

B F Tは「人とシステムをつくる会社」です。

システムづくりに加え、システムにかかわる人材の育成にも力を注ぎ、さらに豊かな社会の実現を目指しています。

- (1) インフラ基盤構築 サーバ環境構築・ネットワーク環境構築・クラウド環境構築
- (2) システム開発 オープン系システム開発
- (3) 教育サービス 「B F T道場」 トレブラ・ギノトレ・チョイトレ

### 【株式会社B F T 名古屋支店】

住所 : 〒460-0003  
愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル2階  
電話 : 052-211-7710  
E-mail : [info@BFTs.co.jp](mailto:info@BFTs.co.jp)

